

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：皮膚・排泄ケア

平成 28 年 3 月改正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

令和 4 年 2 月改正

(目的)

1. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 褥瘡や下肢創傷などの創傷を有する患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。
2. ストーマ保有者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。
3. 排泄障害を伴う患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。
4. 脆弱皮膚をもつ患者に対しアセスメントを行い、皮膚障害を予防する専門的なスキンケアができる。
5. 創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。
6. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。
7. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
8. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
9. 皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導、相談対応・支援を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15	小計	120 (+290)
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15		
	7. 指導	必修	15		
	8. 対人関係*	必修	15		
	9. 特定行為実践	選択	15	小計	
	10. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	11. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	12. 臨床病態生理学	選択	40		
	13. 臨床推論	選択	45		
	14. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	15. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	16. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	17. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	18. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	19. 医療情報論	選択	15		
専門科目	1. 皮膚・排泄ケア概論	必修	15	小計	285
	2. 皮膚のアセスメントとケア	必修	30		
	3. 精神面のアセスメントとケア	必修	15		
	4. 栄養のアセスメントと管理 [排泄管理]	必修	15		
	5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	必修	30		
	6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	必修	30		
	7. ストーマの管理	必修	30		
	8. 排泄障害の管理 [創傷管理]	必修	30		
	9. 創傷の病態と治療	必修	30		
	10. 創傷のアセスメントと管理 I	必修	30		
	11. 創傷のアセスメントと管理 II	必修	30		
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	60	小計	240
	臨地実習	必修	180		
			総時間数	645 (+290)	

*当該分野では「対人関係」は、必修科目とする。

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (必修)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療面接） [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習（身体診察手技） [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
疾病・臨床病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療(救急医療、在宅医療等)を理解する。	状況に応じた(あらゆる年齢・対象を含む)臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室(学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場)や、医療現場(病棟、外来、在宅等)で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目(「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く)において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
<p>1. 皮膚・排泄ケア概論</p>	<p>1) 皮膚・排泄ケア領域の概念や歴史について理解する。 2) 皮膚・排泄ケア領域において必要となる緩和ケアについて理解する。 3) 皮膚・排泄ケア領域において必要となるリスクマネジメントについて理解する。 4) 皮膚・排泄ケア領域における診療報酬及び社会保障について理解する。 5) 皮膚・排泄ケア領域における地域連携について理解する。 6) 褥瘡管理における医療の質評価について理解する。 7) チーム活動における認定看護師の役割について理解する。</p>	<p>1) 皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）の概念 (1) 期待される能力 (2) 対象理解 2) 皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）の歴史 3) 皮膚・排泄ケア領域における緩和ケア 4) 皮膚・排泄ケア領域におけるリスクマネジメント (1) リスクの予測 (2) リスクへの準備 (3) 組織的なリスク管理（災害に備えた対策含む） 5) 皮膚・排泄ケア領域に関連する診療報酬及び社会保障 6) 皮膚・排泄ケア領域における地域包括ケアシステムの概念 (1) 在宅療養における地域連携 (2) 在宅療養における支援体制 7) 褥瘡管理における質の評価 (1) 褥瘡発生率・褥瘡有病率 (2) 褥瘡の治癒期間 (3) 褥瘡予防用品の整備 8) チーム活動における認定看護師の役割（問題解決能力等を含む）</p>	<p>15</p>
<p>2. 皮膚のアセスメントとケア</p>	<p>1) 専門的なスキンケアを行うために必要な皮膚の形態・機能について理解する。 2) 皮膚に影響を与える因子について理解する。 3) 皮膚の状態に応じたアセスメント方法とケアについて理解する。 4) 脆弱皮膚の特徴（病態を含む）とケアについて理解できる。 5) スキンケア用品について理解できる。</p>	<p>1) 皮膚と皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖 2) ヒューマンインターフェイス概念 3) 皮膚に影響を与える内的・外的因子 (1) 内的因子：年齢・疾患・免疫能等 (2) 外的因子：物理的刺激・化学的刺激等 4) 皮膚のアセスメント (1) 皮膚の症候：ドライスキン・浸軟等 (2) 皮疹の種類と特徴 (3) 皮膚損傷：表皮剥離・びらん・潰瘍等 (4) 皮膚感染症：真菌・細菌 5) 脆弱皮膚の特徴（病態を含む）とケア (1) 高齢者 (2) 低出生体重児 (3) 浮腫（リンパ浮腫含む） (4) 黄疸 (5) 治療：がん薬物療法・放射線療法・ステロイド・移植（GVHD）等 6) スキンケア用品 (1) 予防的スキンケア用品：洗浄剤・保湿剤・皮膚保護剤・皮膚被膜剤・粘着剥離剤等 (2) 治療的スキンケア用品：皮膚保護剤等 (3) その他：医療用粘着テープ</p>	<p>30</p>

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	3. 精神面のアセスメントとケア	1) 患者・家族の心理をアセスメントするために必要となる理論について理解する。 2) 患者・家族の心理状態に応じたケアについて理解する。	1) ストレスコーピング (1) ストレス理論 (2) ストレスを引き起こす要因 (3) 治療とストレスマネジメント (4) 援助方法 2) ボディイメージ (1) ボディイメージの定義 (2) ボディイメージの変化に対する適応 3) 悲嘆 (1) 悲嘆の定義 (2) 悲嘆反応 (3) 援助方法 4) 危機理論 (1) 危機の定義 (2) 危機モデル (3) 危機介入 5) 家族理論 6) スピリチュアルケア 7) セクシュアリティ (1) セクシュアリティ・ジェンダー論の概念 (2) 性に関するアセスメントの視点と内容 (3) 性機能障害の原因と要因 (4) 排泄障害のある患者への性機能障害の対応	15
	4. 栄養のアセスメントと管理	1) 栄養状態をアセスメントするために必要となる評価方法について理解する。 2) 皮膚・排泄ケア領域に関連する栄養管理を行うために必要となる管理方法及び栄養剤の種類と特徴について理解する。	1) 栄養状態のアセスメント (1) 主観的包括的評価 (SGA : subjective global assessment) (2) 客観的栄養評価 (ODA : objective data assessment) (3) 栄養経路 2) 栄養管理 (1) 周術期の栄養管理 (2) 栄養必要量の算定 (3) 経口摂取による栄養管理：栄養補助食品の種類と特徴 (4) 経腸栄養管理：経腸栄養剤の種類と特徴	15
	[排泄管理] 5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	1) 消化管の形態・機能について理解する。 2) ストーマを造設する疾患とその治療について理解する。 3) ストーマ造設に伴う合併症について理解する。 4) 排便障害の病態と治療について理解する。	1) 消化管の形態・機能 (1) 上部・下部消化管の解剖と生理 (2) 排便のメカニズム 2) ストーマを造設する疾患と治療 (1) 悪性腫瘍 (2) 炎症性腸疾患 (3) 先天性異常（二分脊椎を含む）等 (4) 脊髄損傷等 3) ストーマ造設に伴う合併症（性機能障害を含む） 4) 排便障害の病態と治療（検査を含む） (1) 貯留能障害：薬物・手術療法 (2) 結腸性（非直腸性）障害：薬物・手術療法	

※ゴシック体表記は、がん関連分野との合同講義が可能な単元

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
	6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	1) 泌尿器の形態・機能について理解する。 2) 尿路変向術を必要とする疾患とその治療について理解する。 3) 尿路変向術に伴う合併症について理解する。 4) 排尿障害の病態と治療について理解する。	1) 泌尿器の形態・機能 (1) 上部・下部尿路の解剖と生理 (2) 排尿のメカニズム 2) 尿路変向術（膀胱ろう・腎ろうを含む）を必要とする疾患と治療 (1) 悪性腫瘍 (2) 先天性異常（二分脊椎を含む）等 (3) 脊髄損傷等 (4) 結石等 3) 尿路変向術に伴う合併症（性機能障害を含む） 4) 排尿障害の病態と治療（検査を含む） (1) 蓄尿障害：薬物・手術療法・保存療法 (2) 尿排出障害：薬物・手術療法・保存療法	30
専 門 科 目	7. ストーマの管理	1) ストーマ用品について理解する。 2) 周手術期のストーマ管理について理解する。 3) ストーマの長期管理について理解する。 4) 成長発達段階に応じたストーマ管理について理解する。 5) ストーマ周囲のスキントラブルを理解し、対処について理解する。 6) ストーマの晩期合併症を理解し、アセスメントできる。 7) ストーマ保有者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) ストーマ用品の種類と特徴 2) 周手術期のストーマ管理 3) ストーマの長期管理 (1) ストーマ外来 (2) ピアサポート (3) 社会保障 (4) 災害対策 4) 小児期から青年期におけるストーマ管理 (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 5) 成人期から老年期におけるストーマ管理（認知症・在宅療養者等を含む） (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 管理困難なストーマケア (1) ストーマ周囲の皮膚障害のアセスメントとケア（ABCD-stoma®を含む） (2) その他のストーマ合併症	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	8. 排泄障害の管理	1) 排便障害・排尿障害のアセスメントができる。 2) 排泄ケア用品の種類や特徴について理解する。 3) 排泄障害の要因や程度にあったケアについて理解する。 4) 排泄障害時のスキンケアについて理解する。 5) 排泄障害がある患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) 排便障害のアセスメント (1) 排便状態のアセスメント (2) 排便障害に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 2) 排泄ケア用品 (排便) の種類と特徴 3) 排便障害のケア：行動療法・強制排便法 4) 排便コントロール：食事療法・薬物療法 5) 下部尿路機能障害のアセスメント (1) 下部尿路症状のアセスメント (2) 下部尿路症状に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 排泄ケア用品 (排尿) の種類と特徴 7) 下部尿路機能障害のケア：行動療法・自己導尿・骨盤底筋訓練等 8) 排泄障害に伴う皮膚障害のアセスメントとケア (IAD-set を含む) 9) 成長発達段階に応じた排泄障害の管理 (1) 小児期から青年期 (二分脊椎等を含む) (2) 成人期から老年期 (認知症、在宅療養者等を含む) 10) 排尿自立機能障害のケア (1) 排尿自立支援 (2) カテーテル管理	30
	[創傷管理] 9. 創傷の病態と治療	1) 創傷の種類と病態について理解する。 2) 創傷治癒過程とメカニズムについて理解する。 3) 創傷治癒を遅延させる局所的要因・全身的要因について理解する。 4) 創床環境調整 (Wound bed preparation) 理論について理解する。 5) 創傷管理における疼痛緩和について理解する。 6) 慢性創傷の治療について理解する。 7) 褥瘡の病態と治療について理解する。 8) 医療関連機器圧迫創傷の病態と治療について理解する。 9) 下肢創傷の病態と治療について理解する。 10) ろう孔の病態と治療について理解する。 11) 創部多開創 (SSI を含む) の病態と治療について理解する。 12) スキンケア (皮膚裂傷) の病態と治療について理解する。	1) 創傷の種類と病態 (1) 急性創傷 (2) 慢性創傷 2) 創傷の治癒過程とメカニズム 3) 創傷治癒を遅延させる因子 4) 創床環境調整 (Wound bed preparation) (1) デブリードマン (2) 滲出液管理 (3) 感染管理 (バイオフィーム及びクリティカルコロナイゼーションを含む) 5) 創傷管理における疼痛緩和 6) 慢性創傷の治療 (1) 陰圧閉鎖療法 (2) 薬物療法 (3) 手術療法 7) 褥瘡の病態と治療 (1) 褥瘡の発生機序 (2) 褥瘡の分類、アセスメント・評価 (3) 治癒のアセスメントとモニタリング (創傷治癒過程、TIME 理論等) (4) 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 (5) DESIGN-R®2020 に基づいた治療指針 (6) 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム (7) 感染のアセスメント (8) 褥瘡の治癒のステージ別局所療法 8) 医療関連機器圧迫創傷の病態と治療 9) 下肢創傷の病態別治療	30

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
	る。	(1) 糖尿病性足病変 (2) 末梢動脈疾患 (PAD) (3) 静脈性潰瘍 10) ろう孔の病態と治療 (1) 胃ろう・腸ろう (2) 消化管外ろう 11) 創部哆開創 (SSI を含む) の病態と治療 12) スキン-テア (皮膚裂傷) の病態と治療	
10. 創傷のアセスメントと管理 I	1) 創傷を有する患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。 2) 創傷被覆材の種類と特徴について理解する。 3) 創傷の状態に合わせた、創傷被覆材や薬剤の選択方法について理解する。 4) 褥瘡の発生機序と予防方法について理解する。 5) 褥瘡のアセスメントができる。 6) 褥瘡の治癒環境を整えるケアについて理解する。	1) 創傷を有する患者のアセスメント (1) 創傷を有する患者の身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 2) 創傷のケア (急性・慢性) (1) 創傷被覆材の種類と特徴 (2) 創傷被覆材の選択の実際 (3) 薬剤の選択の実際 3) 褥瘡管理 (1) 発生機序 (2) リスクアセスメント (3) スキンケア (4) 体圧の調整とポジショニング (車いすを含む) (5) 褥瘡の局所アセスメント (DESIGN-R®2020 を含む)・超音波検査・皮膚温 (6) 褥瘡の局所ケア	30
11. 創傷のアセスメントと管理 II	1) 医療関連機器圧迫創傷のケアについて理解する。 2) 下肢創傷のアセスメントができる。 3) 下肢創傷のケアについて理解する。 4) ろう孔ケアの目的と方法について理解する。 5) 創部哆開創 (SSI を含む) のケアについて理解する。 6) スキン-テア (皮膚裂傷) のケアについて理解する。	1) 医療関連機器圧迫創傷管理 (1) 発生機序 (2) アセスメントとケア 2) 下肢創傷管理 (1) 下肢創傷のアセスメント (血流障害・神経障害の評価)、予防ケア (2) 下肢創傷のケア (フットケア、日常生活指導、フットウェア、局所ケア等) 3) ろう孔管理 (ドレーンを含む) (1) ろう孔の局所アセスメント (2) ろう孔のケア (パウチング法、吸引法等) (3) 特殊なろう孔ケア (胃ろう、気管切開孔等) 4) 創部哆開創 (SSI を含む) の管理 (1) 創部哆開創 (SSI を含む) のアセスメントとケア 5) スキン-テア (皮膚裂傷) の管理 (1) アセスメント (STAR スキン-テア分類を含む) とケア	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄管理技術を身につける。 (ストーマケア・失禁ケア) 2) 創傷管理技術を身につける。 (褥瘡ケア・下肢創傷ケア) 3) 患者のQOLの向上を目指した看護サービスが提供できるための集団教育の方法を理解し、効果的なプレゼンテーションができる。 4) 実習で関わった事例を皮膚・排泄ケアの視点をもって報告することができる。 5) 皮膚・排泄ケア領域で最近の論点となるような問題点や最近のケアについて専門的な立場で将来を見通した考察ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄管理技術演習 排泄管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 2) 創傷管理技術演習 創傷管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 3) プレゼンテーション 講義形式の教育活動の準備・実施・評価を通じて、患者のQOLの向上をめざした質の高い皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）サービスが提供できるための集団教育方法を修得する。 4) ケースレポート <ol style="list-style-type: none"> (1) 皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）の対象となる患者に全人的なケアを行うために的確なアセスメントを実施する。 (2) 皮膚・排泄ケア認定看護師としての役割と機能を十分に発揮できるケア計画を立て実践する。 (3) 科学的論文等を活用し、看護実践を論理的に評価・フィードバックし、看護ケアの専門性について考察を深め、報告する。 	60
臨 地 実 習	臨地実習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 褥瘡や下肢創傷などを有している患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。 2) ストーマ保有者や失禁を伴う患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。 3) 創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。 4) 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。 5) 創傷管理や排泄管理を要する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 6) より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 7) 皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。 	<p>皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）の対象を的確に判断し、QOLの向上をめざした質の高い看護サービスを提供するため、「ケアの実践能力」・「患者及びスタッフへの指導能力」・「スタッフからの相談に応じる能力」を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創傷ケア <ol style="list-style-type: none"> (1) 創傷を有する患者のケア見学を含めて20例以上 (2) 創傷を有する患者のケアの展開1例以上 2) ストーマケア <ol style="list-style-type: none"> (1) ストーマを有する患者のケア見学を含めて15例以上 (2) ストーマを有する患者のケアの展開1例以上 3) 失禁ケア <ol style="list-style-type: none"> (1) 排泄障害を有する患者のケア見学を含めて5例以上 (2) 排泄障害を有する患者のケアの展開1例以上 	180